

# 灯



私的な話で恐縮だが3年喪中が続き昨年末、4年ぶりに年賀状を書きことになった。3年も書かないと何となく年末の手順が狂ってなかなか進まず、以前は早々と書き終えていたのだが一部年を越す体たら

## 明治の日記



草野 義輔

でどこその部屋で酒を飲む、といった内容が頻繁に出てくるので当時の当主は結構酒好きだったので、と勘繰っているが、酒を飲む部屋を随時変えているところが面白くその時々のお困りなどで変えたのだろうか、などと想像している。年末年始は大みそか深夜まで走り回っても、元日を例年通り静かに迎え過せることが肝要で、古来日本人の正月のありようでもある。平穏な一年をと願うが、世の中予想もしないことが

そんな中、早いもので平成も26年目を迎えた。草野家住宅の各種調査に伴い昨年

年から明治中頃の日記の解説が進んでいるが、中に新年を迎える準備で家の傷んだ所を普請し、各部屋の掛け軸などを掛け替えたり、といった記述が見受けられる。今日まで脈々と継承してきている迎春風景との印象だ。

日記には今日は誰それが来たの

起きるのが常であり、想定外のことにどれくらい対応できるかが生きる力でもあると思う。対応力を持って今年一年乗り切りたいと明治の日記と同じようにお参りをしたが、部屋を変えての酒宴は平成の世ではとても許されそうにな

い。(昭和学園高校理事長・日田市)